

第2回 オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会**議事概要**

1. 日 時：平成27年9月11日（金）13：00～15:00

2. 場 所：中央合同庁舎8号館6階 623会議室

3. 出席者：（敬称略）

有川（座長）、黒川、小島、末吉、高木、林、引原、藤井、村山の各構成員、原山総合科学技術・イノベーション会議議員、森本統括官、笹井参事官、真子補佐、須田補佐

1. 議事**（1）プレゼンテーション**

2名の有識者から、オープンサイエンス推進に向けた取組について、プレゼンテーションが行われた。

- ・ 「学術情報のオープン化の推進について（中間取りまとめ案）」（文部科学省研究振興局学術基盤整備室 渡邊室長）
- ・ 「EUにおけるオープンサイエンスの推進」（EU駐日代表部 カラピペリス参事官）

（2）事務局説明

事務局より、オープンサイエンス推進に関するフォローアップ検討会にて検討すべき事項を再整理した内容について、説明があった。

（3）主な意見等

上記のプレゼンテーション及び事務局説明を踏まえた意見交換が行われた。

（オープンサイエンスの推進・定着に向けた人材について）

- イノベーションの推進に向けて、メタデータ情報の環境整備にも着目し、特に、メタデータフォーマットの標準化やその対応をするための専門的な人材の必要性や、研究現場においてそれをサポートする人材の育成に関する議論が必要。
- 先進国では少子高齢化が課題であり科学者や研究者人口の減少が懸念されている。この中

で、オープンサイエンスを推進する上で、諸外国との連携を視野にいれると、国際的に競争力のあるようなポスドク的な若手専門研究者が研究と研究データ管理をしつつ、それを資産としてのデータの扱うような人材活用といった議論ができなくはない。

○ 欧米の場合、PhDを取得した研究人材が研究支援的な役割を担い社会から認知されているものの、日本の場合は、研究者としてのキャリアパスから外れたという認識が少なからずあることから、社会から認知されるようなキャリアパスがないことには、よい人材の確保が難しい。メタデータの整理、管理や整備については、非常に高度で専門的な知識を有する人材でないと対応できないという認識が社会に対して必要であり、その働きかけも重要である。

○ ポスドク人材の有効活用する観点とは別に、少子高齢化社会を視野に入れると、研究者として教授職を退職した人材の中で、若い人に役立ちたいという精神を持った方々を有効活用するののも一つの考え方である。

○ 大学図書館員には、定年を迎える有能な人材がいる。この人材を有効活用する上では、今までの図書館の定型業務に関するノウハウを有するので、同人材の知見や専門性を活かしつつ、若い有能な人材には、今後新たに必要となってくるデータキュレーション等の場面で活躍ができるようなキャリアパスが必要でもあり、それに向けた議論やアクションの検討が必要。

(オープンに対する認識)

○ オープンサイエンスを推進するにあたって、オープンという表現に対する認識が、研究者に対して説明がないまま、研究者として取り組んだ研究成果を全てさらけ出さなくてはならない考え方が先行しないためにも、これに対する情報提供の仕方、説明方法等を部分的にでも本検討会において議論が必要。

○ 研究者や科学者に対して、オープンという表現を使う際、データや情報としてのアセット(資産)という表現を用いることがある。資産としてデータや情報を整備した後にオープンの可否を検討するという捉え方や説明も考えられることから、こういった観点の議論も必要である。

○ オープンの原則と例外の関係性の整理が本検討会での議論の重要なポイントである。これは引き続き議論が必要ではないか。また、今後の本検討会における事務局からの資料においては、「所有権」という表現やその使い方に留意していただくのがよい。これは、「所有権」には概念がなく「著作権」があるだけである。例えば、「著作権」で保護されていないデータについては、データ公開時やデータ収集時のルールの問題となり、データに所有権があるという考え方はない。これはポリシーの問題であり、この観点から、ルールを作っていく中で、オープン原則と例外ということを検討した上で、それをルールに入れ込む余地ある。

4. その他

次回は11月12日（木）17時から開催する。